市政クリップ

第25回白根市美術展覧会
市民の力作、6部門に223点

六月四日から九日まで、カルチャーセンターで市展が開催されました。市民の日ごろの芸術活動の成果が発表され、訪れた人たちの目を楽しませました。入賞者は次のとおりです。　※敬称略

【市長賞】洋画＝庭山正明（高校前通）　書道＝薄田宏恵（能登）　写真＝阿久津光芳（日の出町）　美術工芸＝広川浅子（古川宮前町）

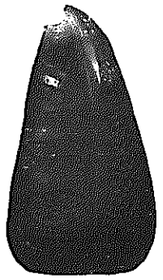
【議長賞】日本画＝伊藤勉（曙町）、薄田フユ（味方村）　洋画＝二見義隆（四ツ興野）　書道＝小湊弘子（月潟村）、水野佳代子（中央通）　写真＝木下信雄（味方村）　美術工芸＝田島ミナ子（みの口）

【教育長賞】日本画＝星野策次郎（鯵潟）　洋画＝小林隆夫（丸潟）　書道＝大塚静子（東町）、織原千翔（二の町）、鶴巻起峰（戸頭）、長谷川美紗（四ツ興野）　写真＝田村正弥（月潟村）

【協会長賞】日本画＝安達富美（下鷲ノ木）、氏家弘子（黒埼町）、岡田徳一郎（鯵潟）、小林光枝（五六の町）　洋画＝中島彩子（庚）　書道＝朝倉勝子（諏訪木）、田村恭子（月潟村）、皆川緑邦（味方村）、吉田静江（日の出町）　写真＝五十嵐智恵子（高校前通）、上田吉平（新津市）、渡辺平穂（黒埼町）

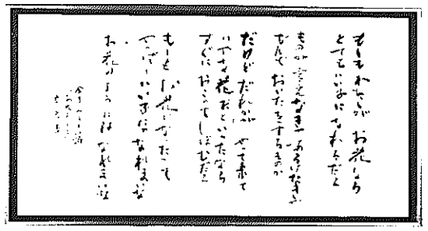
市長賞の作品

【洋画】
抽象の詩（観音像Ⅰ）
庭山正明
（高校前通）



【美術工芸】
息吹
広川浅子
（古川宮前町）

【写真】
薄明のH・B
（199501）彗星
阿久津光芳
（日の出町）



【書道】お花だったら
薄田宏恵（能登）

国道東側ペットボトル回収開始
好反響、まずは5、500本

衛生センター組合が五月から国道東側で試験的に始めたペットボトルの回収が出だし好調です。一回で約三百キログラム（五千五百七十六本分）が集まり、同組合では「予想をはるかに上回り驚き。市民の皆さんの協力に感謝したい」と喜んでいます。

ペットボトルはリサイクル率が非常に高い資源ごみ。ワイシャツや作業服などの衣料品、ハンガーや定規などの家庭用品、工事用杭などの土木資材などとして再利用できます。出されたボトルも県外の再生工場へ送られ、資源として役立てられています。

現在、県内自治体でペットボトルを回収しているのは三割程度。同組合では「初めての試みだったがこれだけ集まるとは思いませんでした。来年は市内全域に、さ来年は管内全域に収集を広げたい」と語っています。

▶ペットボトル10本で作業服1着を作ることができます。衛生センター組合では夏用作業服にリサイクル製品を採用。

※お願い

ペットボトルを出すときは次のことにご協力ください。よりリサイクル効果が高まります。

①必ずキャップを外して出してください。
②中を水洗いしてください。
③他のごみと混ぜないで出してください。中が見えるよう透明な袋に入れてください。

■回収についての問い合わせ　白根衛生センター組合　☎372・3701

Topics 今の話題

身近な情報をお寄せください
（白根市役所企画財政課広報広聴係
☎373・2111）

▶野菜、切り花、笹もちなどがズラリ。好評の朝市です。

朝市、もぎたてをどうぞ

JA白根市女性部「ほほえみ広場」

「地元の新鮮な農産物を市民の皆さんに味わってもらいたい」と、JA白根市女性部が六月から始めた朝市「ほほえみ広場」が好評です。

毎週日曜日、朝八時から十一時まで、JA本所駐車場内に建てられた天幕内には、採れたての野菜や手作りのおこわ、笹もち、洋ナシの瓶詰めなど、白根のさまざまな味がずらり。特に野菜は人気があり「トマトやキュウリなんかはあっという間に売れてしまいますよ」とか。

回を重ねるごとに固定客も増え、小さいけれど楽しい朝市。あなたもぜひ一度出掛けてみませんか。

問い合わせはJA白根市企画総務部（☎373・2105）へどうぞ。

正しい歩き方で運動効果もアップ

カルチャーセンターウオーキング教室

手軽にできるスポーツとして人気のウオーキング。「正しい歩き方を覚えて、より効果を上げてもらおう」と、カルチャーセンターが六月から八月まで月一回ずつ、ウオーキング教室を開いています。

一回目の教室が、六月八日に開かれ、参加者は、市体育指導員の指導で、カルチャーセンター周辺のコース（一周約二キロ）などをウオーキング。最適脈拍数やカロリーを測ったり、お互いの歩き方をチェックしたりして、さわやかな汗を流していました。運動後には、シューズの選び方などのアドバイスもあり、参加した人は「今までは自己流だったが、説明が聞けて良かった」と話していました。

※次回の教室は7月13日(日)、8月3日(日)の午前7時～9時です。申し込み・問い合わせはカルチャーセンター（☎373・6311）へ。

連載・見えてきた拠点～（仮称）生涯学習センター～ ⑤

子供の読み聞かせ、新施設でも

土曜日、お昼ごはんも終わったころ、中央公民館の一室に五～八歳くらいの子供たちがやって来ます。ボランティアグループ「たんぽぽの会」の皆さんが読んでくれる絵本や紙芝居を聞くためです。

「小さいころの絵本は子供の情操面にとてもいいと思います。ゆったりした気持ちでイメージを広げ、想像力を培っていってほしい」と会の長谷川ミサホさん（四ツ興野）。「生涯学習センターでも、読み聞かせの場所や子供たちがくつろげるスペースがほしいと思っていたんですよ」と言います。

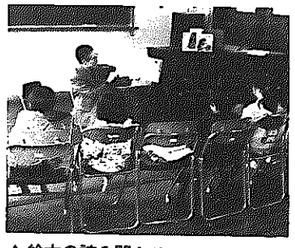
■くつろぎスペース

たんぽぽの会が読み聞かせを始めたのは平成四年のことでした。

「微力でもいいから、子供たちのため誠心誠意やってみよう」とスタートした活動でしたが、思わぬ繁盛。一回に四十人余りも来たことがありました。遠くは庄瀬から通ってくる子もいました。今も、平均十人ほどが毎回聞きに来ます。

「八人の会員、みんなで楽しくやっている」というボランティア活動ですが、最大のネックは読み聞かせの場所。「最初は図書館内でやっていたんですが、子供は周りが気になって落ち着かない。集中できない。本を読んでいる一般の人の迷惑にもなるということで中央公民館に移ったんです」と長谷川さん。「近隣の図書館では読み聞かせルームや畳の部屋など、子供が心からくつろげる場所が確保されている。うらやましいですよね」と言います。

長谷川さんも生涯学習センターの実現へ向けて運動した市民の一人。新施設では読み聞かせルームが確保されるめどがつき「良かった」とにっこり。「三つ子の魂百まで。育て方によって子供はどう芽が出るか分からない。生涯学習センターは子供を大切にする施設になるといいですね」と期待に胸を膨らませました。



▲絵本の読み聞かせ